

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）
企画セッション討議内容の記録

セッション名：地方自治体行政の技術経営（1）（2）	
日付： 6月 5日（土）曜日，セッション時間：16：00～17：30，17：45～18：45	
オーガナイザー名（所属）：谷本圭志（鳥取大学），秀島栄三（名古屋工業大学）	
討 議 内 容	<p>（裏面に個別論文の講評を記述できる欄を設けております．必要に応じてお使いください．）</p>
	<p>行政経営のための計画技術の開発にまで至っていない研究が多い反面，自治体が直面している課題は多い．このため，試行的でもよいので，どのような考え方でどのように分析し，どのような政策を導いたかについての討議は今後も不断に行われる必要がある．</p>

<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : 都筑良明 (東洋大学)</p> <p>事情の異なる様々な流域のデータをまとめて分析することの意義とその結果の政策的合意は何か. 今回は, 行政担当者と住民との意識の違いと検定手法に焦点を当てたため, それらの点についての検討は行っていない.</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : 榊原弘之 (山口大学大学院)</p> <p>表層的な会話のやりとりが続くことと関心が高まるということは別であると考えられるが, この分析手法では, それらの違いについて分離できるのか. 表層的なやりとりでも関心の高まりに寄与することはあり得る.</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : 山本幸 (熊本県上益城振興局)</p> <p>住民と行政職員は, 知識や関心が異なるため, 住民とのコミュニケーションの手法を行政 (庁内) にそのまま当てはまるかは疑問である.</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : 山岡康幸 (名古屋工業大学大学院)</p> <p>評点が高い, もしくは低い底における分散の高さは, 単にそのような評点をする人ほど, 分散の高い評点をするからであるという原因も考えられる. 今後は, この点も1つの可能性とした上で, その要因を解明したい.</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : 灘英樹 (境港市)</p> <p>効用関数は誰の, また誰にとって設定されるものか. 行政が自身の決定する道路について設定するものである. 自治会は, どのように決定しようとも自由である.</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : 長谷部俊之 (熊本大学政策創造研究教育センター)</p> <p>住民に対する説明において, わかりやすさを優先するのは疑問がある. 多少難しい事項であってもステップごとに理解, 解釈をしていくことも考えられるため, どのような情報をいつどのように提供していくかが重要であろう.</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) :</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) :</p>
<p>(発表番号) 発表者名 (所属) :</p>

(発表番号)	発表者名 (所属) : 西野仁 (国土政策技術研究所)
分析に用いられたデータと補助金との関係についてはどのような想定がなされているのか.	
(発表番号)	発表者名 (所属) : 山下和哉 (広島大学大学院)
通院などは外出する曜日を決めていない場合が多い. このため, ランダムに送迎者, 被送迎者をマッチングすると, その傾向が崩されることになり, 不適な分析結果となるのでは. 今日のデータでは, その傾向は見られない. ただ, それはサンプル数が限定的であったためである可能性がある.	
(発表番号)	発表者名 (所属) : 多田寛 (国土政策技術研究所)
職員の技術者数が少ないことにより, 対応できる可能性はかなり違うと考えられる.	
(発表番号)	発表者名 (所属) : 塚原隆夫 (国土政策技術研究所)
一体型調達とすることによる不経済性についても明らかにする必要があるのではないか.	
(発表番号)	発表者名 (所属) : 服部司 (国土政策技術研究所)
提案されている手法の利点は理解できるが, 難点は何か.	
(発表番号)	発表者名 (所属) :
(発表番号)	発表者名 (所属) :
(発表番号)	発表者名 (所属) :
(発表番号)	発表者名 (所属) :